

## 令和3年度 高知県糖尿病医療体制検討会議 議事要旨

1 日時: 令和3年11月15日(月)18:30~20:30

2 場所: 高知県庁本庁舎2階 第二応接室

3 出席者: 19名

### ◆委員 14名

- |           |  |
|-----------|--|
| 有澤 ゆかり 委員 | (高知県栄養士会 常務理事)                                     |
| 池田 幸雄 委員  | (高知記念病院 糖尿病内科部長)                                   |
| 川上 美由起 委員 | (高知県保険者協議会 保健事業部会委員)                               |
| 計田 香子 委員  | (高知県医師会 常任理事)                                      |
| 末廣 正 委員   | (高知高須病院 糖尿病内科部長<br>日本糖尿病学会 糖尿病対策推進地区担当委員)          |
| 菅野 尚 委員   | (高知医療センター 集学診療部長兼糖尿病・内分泌内科長)                       |
| 高松 和永 委員  | (高松内科クリニック 院長<br>日本糖尿病学会 糖尿病対策推進地区担当委員)            |
| 寺田 典生 委員  | (高知大学医学部 内分泌代謝・腎臓内科学講座 教授<br>慢性腎臓病(CKD)対策連絡協議会 会長) |
| 中村 寿宏 委員  | (三愛病院 院長)  |
| 西岡 政道 委員  | (高知県歯科医師会 理事)                                      |
| 松岡 和江 委員  | (高知県看護協会 常任理事)                                     |
| 福永 一郎 委員  | (高知県安芸福祉保健所 所長)                                    |
| 藤本 新平 委員  | (高知大学医学部 内分泌代謝・腎臓内科 教授<br>日本糖尿病協会高知県支部 支部長)        |
| 吉永 恵子 委員  | (高知赤十字病院 看護部長)                                     |

### ◆代理出席1名

- |       |                |
|-------|----------------|
| 西森 郷子 | (高知県薬剤師会 常務理事) |
|-------|----------------|

### ◆事務局4名

## 4 会議の概要

### (1) 協議事項

#### ア 令和2年度 of 取組及び評価について

資料1-1、1-2、追加資料、資料2により、事務局が、令和2年度第7期高知県保健医療計画「糖尿病」の評価調書について説明。質疑応答・意見交換の結果、承認された。

#### イ 令和3年度の取組について

資料3により、事務局が、第7期高知県保健医療計画に基づく令和2年度の糖尿病対策の取組計画及

び現在までの進捗状況について説明し、質疑応答・意見交換を行った。

## 5 質疑応答・意見交換の要旨

### 令和2年度の実施及び評価について

- 【座長】特定健診受診率は全国との差は縮まっている。保健指導は全国平均を超えている。糖尿病性腎症重症化予防プログラムⅠは取組が増加傾向、プログラムⅡはまだまだ介入人数が少ないが、当初は専門医療機関(栄養指導あり)との連携数が多かったが、かかりつけ医での管理のうえで保険者による保健指導がかなり伸びてきている。医師と保健師が連携を進めていることの現れでないかと思う。プログラムのⅠはH30年度R元年度と高知市が頑張ってくれており、介入人数は多い。
- 【委員】参考資料のグラフで腎硬化症が60歳未満や60歳代で減ってきているのは、DKD(糖尿病腎臓病)の考え方が浸透してきて、少しでも血糖の異常があれば糖尿病性腎症での導入というところにチェックがつくからなのではないだろうか。
- 【委員】管理栄養士雇用促進費補助金が令和2年度で終了したということですが、自院での雇用が難しかったため補助金を活用し栄養士に来ていただいたと思うが、先生方は困ってないか。
- 【委員】1診療所は栄養指導が無しになったが、その他は継続して栄養指導を行っている。
- 【委員】県や保健所の栄養士もオンラインをうまく使って知識の普及を是非してもらいたい。
- 【座長】基本的に医療従事者はITは慣れている。また県や二次医療圏での連携の会議でもWebでやったが情報交換もでき相互理解が進んだ。医師と行政の連携は重症化予防を進めるにあたって肝になる。Webをうまく使っていただきたい。
- 【事務局】県でもデジタル化を進めている。特定保健指導ではオンラインを使ってもポイントを取得できる。また、保険薬局がない地域での服薬指導を薬剤師会がモデル的に実施しており、そこでの取組を通常の保健指導に生かせないか模索している。デジタル化というところで各保険者と取り組んでいきたい。
- 【委員】薬剤師会の糖尿病薬処方実態調査は非常に貴重なデータだと思う。強いていえば、患者さんは4週間ごとにくる方は少ないので患者数は過小評価になってしまう。

### 令和3年度の実施について

- 【座長】11月からナッジ理論を活用した広報が始まったところだが、反響や実施してみでの評価はいかがいか。
- 【事務局】今年度についてはまだ評価はできていないが、昨年度は生活改善に取り組んでいると回答した方が6割くらいだった。今年度は量販店で野菜の多い惣菜やカット野菜に健康チャレンジの黄色いシールを貼ってもらっている。売上の前後比較を昨年度と比較しながら野菜の摂取を増やしていく取組を進めている。
- 【委員】濱田知事や前尾崎知事には歯周病のテレビCMに出ていただいているが、放映された後のレセプトをみると例年と違う形で増加しているので、CMをみて受診されているのではないかと考えている。
- 【座長】医科歯科連携のパンフレットについては、10月から医療機関で配布しているところだが、歯科診療所への影響はいかがいか。

【委員】個々の歯科診療所について把握はしていないが、自院の患者さんは少しずつ持ち込んでいるといった状況。

【事務局】糖尿病患者さんの歯科治療について、データを資料に載せている。糖尿病患者さんの約半数が歯科受診をされていて、その約8割が歯周病歯肉炎治療を受けている。年代で見ると30、40代の若い男性の受診率が低い。歯周病治療をすると血糖コントロールがよくなるので、年1回は歯科受診し歯周病チェックをし、必要な方には歯周病治療をしていただく取組を歯科医師会と進めている。

【座長】薬剤師会の服薬指導は新たな取組だが、もう始まっているのか。

【委員】アンケート調査は現在(11月～1か月)やっており、資料を活用した服薬指導は10月から全保険薬局で実施している。

【座長】薬が不規則になるのは、糖尿病に対する理解不足がトップなので、是非に啓発活動をやっていただきたい。

【座長】健診結果からみる糖尿病有所見者の割合が全国と比べても増えてきているということで、解析結果で関連が認められたということでもよろしいか。

【事務局】令和2年度に大阪大学に委託し、要因を分析依頼したところ、「20歳から体重増加が10kg以上ある」「身体活動習慣がない」「肝機能が高い(AST または ALT > 30)」という3つの要因が挙がっている。

【座長】非常に心配なデータである。若い頃からの影響が出てくるということで、学校と連携した食育などの啓発活動は今はどのように進んでいるのか。

【事務局】H25年度から教育委員会や学校と連携して子どもの頃からの望ましい生活習慣の獲得ということで取り組んでいる。学校で配る副読本を作成し、それを基に学校で授業を行っている。食事や運動、睡眠など規則正しい生活について学んでいただいているが、朝食の摂取率もなかなか上がっていかない。ただ、平成10年代頃から全国でもかなり悪い値だったところが、ちょっとづつよくなってはきている。ただ、これはNDBデータなので、20代、30代、40代の若い方に知っていただき、生活を見直していただけたらいいかと思う。

【委員】薬剤師会の調査の言葉の使い方について、糖尿病ネットワークで実施している治療中断理由などを参考に引用されてもいいと思う。

【座長】調剤薬局にも最近CDE高知の方がいるので、説明する際に患者さんの立場に立って行動変容をちゃんとできるような指導をしていただければよいと思う。

## 6 その他 意見なし